




風の強さと吹き方

平均風速(m/s)	予報用語	人への影響	屋外・樹木の様子	建造物の被害
10以上 15未満	やや 強い風	風に向って歩きにくくなる。 傘がさせない。 	樹木全体が揺れる。 電線が鳴る。 	取り付けの不完全な看板やタン板が飛び始める。
15以上 20未満	強い風	風に向って歩けない。 転倒する人もでる。 	小枝が折れる。 	ビニールハウスが壊れ始める。
20以上 25未満	非常に 強い風	しっかりと身体を確保しないと転倒する。 		鋼製シャッターが壊れ始める。 風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。
25以上 30未満		立ってられない。 屋外での行動は危険。 		樹木が根こそぎ倒れはじめる。 

台風の大きさと強さ

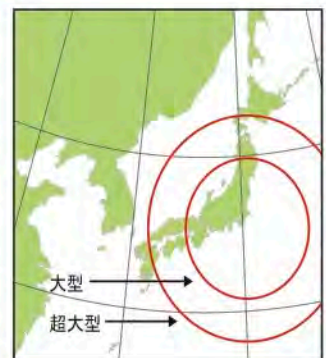
気象庁は台風のおおよその勢力を示す目安として、下表のように風速(10分間平均)をもとに台風の「大きさ」と「強さ」を表現します。「大きさ」は「強風域(風速15m/s以上の強い風が吹いているか、地形の影響などがない場合に吹く可能性のある範囲)」の半径で、「強さ」は「最大風速」で区分しています。

さらに、強風域の内側で風速25m/s以上の風が吹いているか、地形の影響などがない場合に吹く可能性のある範囲を暴風域と呼びます。

階級	最大風速
強い	33m/s(64ノット)以上～ 44m/s(85ノット)未満
非常に強い	44m/s(85ノット)以上～ 54m/s(105ノット)未満
猛烈な	54m/s(105ノット)以上

階級	風速15m/s以上の半径
大型(大きい)	500km以上～ 800km未満
超大型(非常に大きい)	800km以上

大型、超大型の台風それぞれの大きさは、日本列島の大きさと比較すると右記のようになります。



台風に関する情報の中では台風の大きさと強さを組み合わせて、「大型で強い台風」のように呼びます。ただし、強風域の半径が500km未満の場合には大きさを表現せず、最大風速が33m/s未満の場合には強さを表現しません。例えば「強い台風」と発表している場合、その台風は、強風域の半径が500km未満で、中心付近の最大風速は33～43m/sあって暴風域を伴っていることを表します。

なお、天気図上では、暴風域を円形で示します。この円内は暴風がいつ吹いてもおかしくない範囲です。